

提供日 2022/9/16  
タイトル 終末期（もしものとき、エンディング）ケア  
6言語の「みせてお話し」ノートを作成  
担当 静岡県公立大学法人 静岡県立大学  
看護学部 前野真由美



静岡県立大学記者提供資料

## 終末期（もしものとき、エンディング）ケア 6言語の「みせてお話し」ノートを作成

この度、本学教員と、静岡県在住の大学教員、医療従事者、医療通訳経験者らが、外国人の終末期ケアに繋がるよう6言語の終末期（もしものとき、エンディング）ケア「みせてお話し」ノートを作成しました。

言語は、ポルトガル語、スペイン語、フィリピン語、中国語、インドネシア語、英語の6つで、日本語と各言語が併記されています。日本人と外国人が、一緒にみて、お話しができるよう作成しました。

**報道機関の皆様におかれましては、取材をお願いいたします。**

本ノートは、家族や大切な人、医療や介護の人と、終末期（もしものとき、エンディング）に関して話すときに、使えるよう作成しました。ノートを、互いに見ながら、互いの考えを知り、話し合うことができる、また、互いの大切なものを互いに大切にできるに繋がるようにと、作成しました。内容は、「もしものとき」、「エンディングに近いとき」、「どのようなケアを思い浮かべるか」等から始まり、「告知や医療の決定に関すること」、「希望する生活や大切にしたいもの」、「亡くなった後のこと」、「緩和ケアについての情報を得ているか」、など質問形式になっています。

作成に関わったのは、看護学、理学療法学、歯科衛生学、国際関係学、様々な語学、保育学を専門とする県内大学所属の教員、県内の病院や診療所などで働く医師、看護師、保健師、医療ソーシャルワーカーなどの医療従事者、県内で医療通訳として経験がある翻訳・通訳者です。本学また県内の大学の卒業生、民生委員の方もいます。日本、外国籍問わず、地域に暮らすみなさんで作成しました。

なお、本ノートは、平成29年度科学研究費助成事業（科学研究費基金）基盤研究(c)17k09207「在住外国人の終末期ケアの在り方に関する研究」の研究費を活用し作成し、静岡県立大学 令和4(2022)年度地域を志向した研究「在住外国人（もしものとき、エンディング）ケアを考える」会にて発表しました。

本ノートは、大学ホームページからダウンロードが可能です。

<https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/news/20220916/>

### 【本件に関するお問い合わせ先】

〒422-8021 静岡市駿河区小鹿2-2-1

静岡県立大学 小鹿キャンパス 看護学部 前野真由美

電話 054 - 202 - 2678

メールアドレス maeno(ここに@を入れる)u-shizuoka-ken.ac.jp